〈現場報告〉

兵庫県下，T市を中心とした住民の年齢区分別エイズ意識調査

喜多博子
(兵庫県赤穂保健所)
永野良子
(兵庫県明石保健所)
天野晴美
(兵庫県高砂保健所)
杉山武司，武川公
(姫路獨協大学一般教育部)

An AIDS opinion poll based on age classification for the inhabitants of Hyogo prefecture with concentration on T city

Hiroko KITA
(Hyogo Prefectural Ako Health Center)
Yoshiko NAGANO
(Hyogo Prefectural Akashi Health Center)
Harumi AMANO
(Hyogo Prefectural Takasago Health Center)
Takeshi SUGIYAMA, Akira TAKEKAWA
(College of Liberal Arts, Himeji Dokkyo University)

H. KITA, Y. NAGANO, H. AMANO, T. SUGIYAMA, A. TAKEKAWA *An AIDS Opinion Poll Based on Age Classification for the Inhabitants of Hyogo Prefecture with concentration on T City*, **44**(4), 511-517, 1995.

An AIDS opinion poll was given to the inhabitants of Hyogo prefecture with concentration on Takasago City to find out their opinions according to age classes. This poll was conducted from May to October, 1993. The number of valid responses was 1182. The results are as follows; (1) The group of under 20 have scarce information about AIDS and they feel a strong sense of uneasiness toward AIDS. (2) The 20s have also the same unease, but they have positive interest in getting AIDS information. (3) The 30s to 50s have interest in AIDS, however they do not feel so uneasy as the group of under 20 and the 20s. (4) Those over 60 do not feel any relation to AIDS and have little uneasiness toward it.

Key Words AIDS, Opinion Poll, Age classes

(Accepted for publication, November 6, 1995)

[キーワード] エイズ，意識調査，年齢区分
[平成7年11月6日受理]

1．はじめに

1981年に世界で初めてエイズ患者が発見され，1995年6月末では，公式に報告された患者数の累積合計は192か国，1,169,811人になっている．しかし，サーベイランス体制の未確立な国があることなどを考慮して，WHOは過去の累積患者数の合計を450万人，累積感染者数を2,000万人と推計している[1]．この数は紀元2000年には累積患者数1,000万人，累積感染者数4,000万人になると予想されている[2]．一方，わが国の現状をみると，凝固因子製剤による感染を除く，エイズ予防法施行（1989年2月17日）から1995年8月末までの累積患者報告数は496人，累積感染者報告数は1,620人を数えている[3]．年次推移で見ると，異性間性的接触の患者数は1991年頃より次第に増加傾向にあり，HIV感染者報告数は同時期頃より顕著な増加を示している[4]．

そこで，我々は，さらに効果的な啓発活動を実施する目的で，日常業務の中で高砂市を中心とする兵庫県の住民に「エイズに関する意識調査」のアンケート調査をおこない，エイズ意識に対する性別，年齢区分別相違を検討した．

2．調査方法

1）調査期間および調査方法

調査票は，平成5年5月22日から平成5年10月29日までの間に，表1のような日常の保健所業務を通して2,660枚を配布し，1,207枚を回収した．対象とした住民の居住地は84.1%（1013名）が，高砂市およびその隣接市（加古川市，姫路市）であり，兵庫県下の市，町を含めると，その割合は97.5%（1174名）となっている（表2，その他（）から評価）．なお，サンプルの抽出にあたって，保健所の接触可能な集団を選んだため，サンプルに偏りが含まれている可能性が大きい．また年齢区分ごとのサンプルのばらつき，回収方法の違いによる回収率の差も生じている．

2）調査項目

表2に示す調査票の内容は基礎項目（性別，年齢，職業，配偶者の有無，住居地域），エイズについての情報源（問1，2），エイズに対する見通し（問3，4），エイズ感染についての知識（問5，6），エイズ感染に対する不安（問7）エイズ感染者（自分を含む）に対する態度（問8～10），エイズに対する予防方法（問11），必要なエイズ対策（問12），エイズと社会問題（問13，

表1　アンケート用紙配付方法

アンケート用紙配布方法 （）内は配布回数		配布数	回収数	回収率 (%)	回収方法	備考
街頭キャンペーン	一般（4）	1000	165	16.5	郵送	高砂市内
エイズ講演会	一般（5）	140	132	94.3	配布後回収	主催：市民団体、公民館、高砂市、高砂保健所
	企業従業員（1）	236	167	70.8	配布後回収	主催：企業（高砂市内の重工業）
高砂保健所健康相談	一般（7）	82	60	73.2	郵送	
健康教育研修（エイズ以外をテーマとした研修）	高齢者（1）	400	165	41.3	郵送	老人会（高砂市内）
	一般（4）	197	76	38.6	郵送	4市民団体（高砂市3、加古川市1）
	一般（3）	50	39	78.0	配布後回収	3市民団体（高砂市内）
	企業従業員（3）	216	102	47.2	郵送	3企業（高砂市内の食品、鉄鋼、化学）
	公共団体職員（1）	70	32	45.7	配布後回収	1団体（高砂市内の警察）
学校	高校生（1）	150	150	100.0	配布後回収	高砂市内
	看護学生（2）	84	84	100.0	配布後回収	高砂市内
	大学生（1）	35	35	100.0	配布後回収	姫路市内
合計		2660	1207	45.4		

表2　エイズの意識調査に関するアンケート用紙

基礎項目

性別　1．男性　2．女性

年齢　1．２０歳未満　2．２０歳代　3．３０歳代　4．４０歳代　5．５０歳代　6．６０歳以上

職業　1．会社員　2．主婦　3．自営業　4．農業　5．漁業　6．学生　7．公務員　8．医療関係従事者　9．その他（　）

配偶者　1．ある　2．ない

住居地域　1．高砂市　2．加古川市　3．明石市　4．姫路市　5．神戸市　6．その他（　）

問１　あなたは"エイズ（ＡＩＤＳ）"ということばを見たり聞いたりしたことがありますか？
　1．ある　2．ない
　ある場合、その情報は何によって知りましたか？
　1．テレビ・ラジオ　2．新聞　3．週刊誌　4．パンフレット・ポスター　5．人づてに聞く　6．その他（　）

問２　次の質問のうち、あなたに当てはまるものを選んでください。
　Ａ．テレビの「エイズ特集」番組について
　1．番組を見たことがある。
　2．番組があることは知っているが、見たことはない。
　3．番組があることは知らなかった。
　Ｂ．エイズの講演会や研修会について
　4．講演会に参加したことがある。
　5．講演会があることは知っているが、参加したことはない。
　6．講演会があることを知らなかった。

問３エイズは特定の人の間で流行する病気であるので、自分には関係ない。
　1．そう思う。　2．そう思わない。　3．わからない。

問４　エイズはわが国でも流行する可能性がある。
　1．そう思う。　2．そう思わない。　3．わからない。

問５　次の質問のうち、正しいと思うものすべてを選んでください。
　1．エイズは普通の生活をしていれば感染することはない。
　2．エイズは、ペットなどの動物から感染することがある。
　3．献血、採血、医療行為のときの注射針は使い捨てなので感染の心配はない。
　4．エイズウィルス抗体検査を受けた結果、陰性であれば今後とも感染する可能性はない。
　5．献血ではエイズウィルス抗体検査の結果を知ることはできない。

問６　「エイズにかかった人」からどのようなことで感染すると思いますか？
　1．せきやくしゃみをあびる。
　2．鍋物などを一緒に食べる。
　3．同じ理容店や美容院に行く。
　4．銭湯やプールに一緒に入る。
　5．かるいキスをする。
　6．体に触れたり、握手をする。
　7．血液に触れる。
　8．同じ蚊に刺される。
　9．性交渉を持つ。
　10．家庭・学校・職場で一緒に過ごす。

問７　あなたは自分がエイズに感染するかもしれないという不安をお持ちですか？
　1．不安をもっている。
　2．少し不安である。
　3．あまり不安はない。
　4．まったく不安はない。

問８　もしあなたがエイズに感染したら、あなたはどうしますか？
　1．いままでと同様の生活をする。
　2．家族と別居生活をする。
　3．医療機関に入院する。
　4．自殺してしまうかもしれない。
　5．その他（　）
　6．わからない。

問９　もしあなたの配偶者がエイズに感染したら、あなたはどうしますか？
　1．いままでと同様の生活をする。
　2．同居するが、生活の場を分ける。
　3．別居する。
　4．配偶者と離婚する。
　5．その他（　）
　6．わからない。

問10　あなたの身近な人がエイズに感染したら、あなたはどうしますか？
　1．いままでと同様の生活をする。
　2．なるべくつき合わないようにする。
　3．一切のつき合いをやめる。
　4．その他（　）
　5．わからない。

問１１　エイズに対して、あなたができる適切な予防方法は何だと思われますか？
　1．エイズウィルスを吸い込まないようにマスクをする。
　2．予防接種をうける。
　3．食器をよく消毒する。
　4．公衆浴場やプールなどには行かないようにする。
　5．様式トイレは使わないようにする。
　6．コンドームを正しく使用する。
　7．エイズウィルス抗体検査を受ける。
　8．くすり（抗生物質）などを使う。
　9．なま物を食べないようにする。
　10．その他（　）

問１２　エイズ対策としてあなたが必要と思う事項を選んでください。
　1．予防ワクチン、治療薬等の研究開発。
　2．エイズに対する正しい知識の普及。
　3．患者や感染者の隔離。
　4．患者や感染者の届出制度。。
　5．全国民に対するエイズ検査の義務付け。
　6．患者や感染者のプライバシーの保護。
　7．相談窓口の充実。
　8．医療機関における受け入れ体制の拡充。
　9．その他（　）
　10．わからない。

問１３　今後エイズ患者が増加することで、社会問題としてどのようなことが心配ですか？
　1．エイズ患者が増加することで、人々の人生観・家族観が変わってくる。
　2．エイズ患者が増加することで、性に対する考え方が変わってくる。
　3．患者・感染者に対する差別や偏見により、村八分的な風潮がでてくる。
　4．患者・感染者に対する差別や偏見により、患者・感染者の正常な社会生活の機会が奪われる。
　5．患者・感染者に対する差別や偏見により、国際化にブレーキがかかる。
　6．エイズ末期患者に対する医療・支援の立ち遅れ。
　7．わからない。

問１４　平成元年より「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律（いわゆるエイズ予防法）」という法律が施行されましたが、ご存じでしたか？
　1．知っていた。　2．知らなかった。

問１５　平成５年５月より兵庫県の保健所で、感染の心配のある人に匿名によるエイズウィルス抗体検査が無料で受けられるようになりましたが、ご存じでしたか？
　1．知っていた。　2．知らなかった。

問１６　あなたはエイズウィルス抗体検査を受けようと思いますか？
　1．すでに受けたことがある。
　2．無料なら受けてみたい。
　3．検査を受けようとは思わない。
　　それはなぜですか？
　　1．自分には関係がないから。
　　2．結果を聞くのが恐いから。
　　3．その他（　）

14)，エイズウィルス抗体検査（問15，16）についてのものであり，各項目について複数の回答選択肢を用意した．なお「エイズに感染する」という表現は，正確には「HIVに感染する」であるが，ここではアンケート用紙で用いた表現「エイズに感染する」を使用する．また，講演会参加者が，問2のBの質問（講演会への参加の有無等）に答える場合，現在参加している講演会に関する事柄を除いて答えるように指示した．

3）解析方法

回収した1,207枚のうち回答の不備な者を除き，1,204枚が有効な回収数であった．そのうち性別，年齢の記入のある1,182名を解析対象とし，これらのデータに対して，各設問に対する回答状況の性別，年齢区分別有意差をカイ2乗検定によって判定した．

3．結　　果

1）解析対象者の分布

解析対象者1,182名の性別の内訳は男性521名（44.1%），女性661名（55.9%），年齢別の内訳は20歳未満221名（18.7%），20歳代207名（17.5%），30歳代186名（15.7%），40歳代205名（17.3%），50歳代170名（14.4%），60歳以上193名（16.3%）であった．男性の職業の年齢区分別特徴は，それぞれ20歳未満は学生，20歳代は主に会社員（以下，公務員を含む），30～50歳代は会社員，60歳以上では会社員が減り（14.3%），「その他」が増加（58.9%）する．女性の場合，20歳未満は学生，20歳代は主に，学生と会社員，30～50歳代は主婦と会社員，60歳以上では主婦（58.4%）と「その他」（22.6%）である．

2）年齢区分別回答状況

表3は解析対象とした1,182名の各調査項目への回答状況を性別，年齢区分別にパーセントで表示したものである．表中，性別，年齢区分別の有意差の程度が$p<0.01$の場合，**，$0.05>p>0.01$の場合，*を欄外に付した．性別，年齢区分別のいずれにも差が認められない調査項目は省略した．表3から次のことが読みとれる．

(1)　エイズについての情報源（問2A1，問2B4）において，20歳未満と60歳以上のグループでは他の年代に比してエイズの情報に接する機会が少ない．

(2)　エイズを自分と関係ある問題として捉える割合は20歳代をピークにして30歳代以降ゆっくりと減少し始め，60歳以上で急激に低下する（問3）．このカーブは「エイズ感染に対する不安」（問7），「抗体検査を受けたい」（問16．2）においてはもっと顕著である．60歳以上においてはエイズを自分と関係ある問題として捉えておらず，従ってエイズに対する不安もない（問3，問7）．しかし，それは問6から明らかなようにエイズの感染に正しい知識をもっているためではない．

(3)　エイズ感染者に対する態度（問8，問9，問10）の年齢区分別回答状況は以下の通りである．自分がエイズに感染する場合（問8）では，年齢と共に「同様の生活をする」を選択する割合が増加し，50歳代をピークに60歳以上では減少する．「医療機関に入院する」を選択する割合は20歳代以降，年齢と共に増加する．また20歳未満では10.5%は自殺を考えている．配偶者がエイズに感染する場合（問9）は，60歳以上では「同様の生活をする」の割合は減少し，逆に別居が増加する．生活の場をわけるという対処の仕方は年齢と共にゆっくりと増加する．身近な人がエイズに感染する場合（問10）は「同様の生活をする」の割合は60歳以上でも減少しない．しかし「なるべくつき合わない」を選択する割合は年齢と共に増加する．また，どの場合においても，「わからない」の割合は20歳未満で最大であり，20歳代から50歳代にかけて減少する．

(4)　エイズに対する予防方法（問11）の知識においては，予防知識全般にわたって60歳以上に顕著な誤りの増加が見られた．

(5)　エイズと社会的問題（問13）については，すべての選択肢で，20歳未満のグループが選択した割合は他の年代に比べて少なかった．

(6)　エイズウィルス抗体検査（問15，問16）においては，「保健所においてHIVの抗体検査が匿名かつ無料で受けられる」の割合は，他の年代に比べて60歳以上と20歳未満で低い．特に20歳未満ではそれが顕著である．すでにHIV抗体検査を受けた人々はわずかであるが，受診希望者は20歳未満，20歳代に多く，その後は年齢と共に顕著な減少を示している．逆に「受けようとは思わない」は年齢と共に増加している．その理由として，「自分には関係がない」が30歳代以降，年齢と共に増加している．これに対し，「結果を聞くのが恐い」は20歳未満より減少し，30歳代以降で，それが

表3　調査項目に対する性別，年齢区分別有意差の有無

調査項目	性別(%) 男性	性別(%) 女性	年齢区分(%) 20>	20代	30代	40代	50代	60<
[エイズについての情報源]								
問2A1 「エイズ特集」番組を見たことがある	72.8	75.1	65.0	76.2	78.8	78.4	76.9	69.2 *
問2B4 エイズ講演会に参加したことがある	12.2	15.6*	4.6	16.8	13.9	15.4	23.3	11.2 **
[エイズに対する見通し]								
問3 「エイズは自分には関係ない」とは思わない	75.3	71.5	72.6	85.4	83.5	73.9	74.3	46.7 **
[エイズ感染についての知識]								
問5.1 エイズは普通の生活では感染することはない	95.1	96.8	90.3	95.4	97.8	98.0	98.2	97.8 **
4 エイズ検査の結果、陰性であれば今後とも感染しない	9.2	8.3	6.0	7.2	4.4	11.8	9.7	12.0 *
5 献血ではエイズ検査の結果を知ることはできない	46.4	56.0**	43.5	51.0	53.3	54.4	52.1	57.9
問6.2 鍋物などを一緒に食べる	2.1	2.5	0.9	1.5	2.7	1.5	1.8	7.5 **
3 同じ理容院や美容院に行く	16.1	16.5	12.3	16.7	10.4	22.0	16.8	18.8 *
4 銭湯やプールに一緒に入る	3.3	4.4	2.3	3.9	2.7	2.9	3.6	8.6 *
5 かるいキスをする	6.2	11.4**	1.8	6.4	5.5	8.8	9.0	25.3 **
7 血液に触れる	65.8	79.3**	64.4	75.5	69.4	79.0	69.5	82.8 **
8 同じ蚊に刺される	27.9	33.4*	23.7	29.4	24.6	32.2	32.3	45.7 **
[エイズ感染に対する不安]								
問7 エイズ感染に対する不安がある（不安をもっている＋少し不安がある）	36.6	27.9**	41.1	48.5	33.9	28.8	26.7	8.5 **
[エイズ感染者に対する態度]								
＜自分自身の場合＞								
問8.1 同様の生活をする	28.8	24.6	21.9	26.2	25.7	28.3	35.4	22.3 **
2 家族と別居する	6.8	4.4	3.7	7.8	3.3	7.3	3.0	7.3 **
3 医療機関に入院する	22.9	25.7	16.9	11.7	25.7	26.8	32.9	38.5 **
4 自殺する	3.9	6.1	10.5	8.7	4.4	2.4	1.2	1.7 **
6 わからない	35.8	37.6	45.2	43.2	38.8	34.1	26.8	29.1 **
＜配偶者の場合＞								
問9.1 同様の生活をする	47.8	43.7	49.1	49.8	41.5	47.7	46.9	35.4 **
2 生活の場を分ける	10.2	11.1	6.0	7.7	11.5	11.7	14.2	15.2 **
3 別居する	4.1	7.9	2.3	3.4	4.4	7.1	6.2	15.7 **
4 離婚する	3.1	3.3	3.7	5.3	2.2	1.0	4.3	2.8 **
6 わからない	31.4	30.1	34.9	32.9	36.6	29.4	24.7	24.2 **
＜身近かな人の場合＞								
問10.1 同様の生活をする	56.0	57.5	57.1	56.6	57.7	50.3	65.9	53.3 **
2 なるべくつき合わない	18.6	13.9	8.2	14.1	14.8	21.6	15.9	23.4 **
3 一切のつき合いをやめる	2.5	1.9	2.7	2.0	1.6	0.5	3.7	2.7 **
5 わからない	22.1	25.7	31.5	26.8	24.7	27.1	14.6	17.9 **
[エイズに対する予防方法]								
問11.1 マスクをする	1.6	1.9	0.5	0.0	1.1	2.0	2.6	6.2 **
2 予防接種を受ける	11.1	17.0**	12.0	8.4	6.0	14.2	13.5	34.5 **
3 食器はよく消毒する	11.3	17.2**	9.7	11.4	8.2	13.2	16.0	31.1 **
4 浴場やプールに行かない	2.4	9.6**	1.4	5.0	2.2	7.6	5.1	18.6 **
5 洋式トイレは使わない	1.6	6.1**	1.4	4.5	1.6	3.0	2.6	11.9 **
7 エイズ検査を受ける	57.2	72.5**	68.5	67.8	61.5	58.9	67.3	70.1
8 薬（抗生物質）を使う	3.0	5.3	2.3	2.5	3.8	2.0	3.8	11.9 **
9 なま物を食べない	1.6	2.1	1.9	0.0	1.1	0.5	1.3	6.8 **
[必要なエイズ対策]								
問12.1 予防ワクチン、治療薬等の研究開発	72.9	76.0	63.4	79.7	75.3	76.7	72.3	80.9 **
2 正しい知識の普及	87.1	93.7**	86.1	93.7	89.6	89.6	92.5	94.0 *
3 患者や感染者の隔離	10.7	10.6	4.2	6.3	6.6	14.4	9.4	24.0 **
4 患者や感染者の届出制度	23.8	34.2**	21.3	34.8	21.4	30.2	30.2	41.0 **
5 エイズ検査の義務付け	41.6	52.7**	44.0	53.6	40.1	43.6	45.9	59.0 **
6 患者や感染者のプライバシーの保護	62.3	73.5**	63.4	75.8	67.0	63.9	65.4	74.9 *
7 相談窓口の充実	60.0	73.6**	56.9	78.3	61.5	66.3	68.6	74.9 **
8 医療機関における受け入れ体制の拡充	70.3	83.4**	63.0	85.0	80.2	79.2	76.0	82.5 **
[エイズと社会問題]								
問13.1 人生観・家族観の変化	55.6	58.9	43.0	62.6	55.2	63.0	58.9	65.4 **
2 性に対する考え方の変化	60.0	65.7*	49.1	59.2	58.0	68.5	64.4	82.4 **
3 村八分的な風潮がでてくる	61.8	63.2	55.6	73.3	71.3	60.0	55.2	60.4 **
4 患者・感染者の正常な社会生活の機会が奪われる	77.4	79.9	67.8	85.9	82.9	79.5	78.5	78.6 **
5 差別や偏見により、国際化にブレキーがかかる	15.6	16.8	10.3	22.8	14.9	18.5	13.5	17.6 *
6 エイズ末期患者に対する医療・支援の立ち遅れ	57.6	64.4*	35.0	64.1	70.2	63.0	69.9	72.0 **
[エイズウィルス抗体検査]								
問15.1 HIV抗体検査が無料	46.5	50.2	35.9	51.7	49.5	53.7	58.4	43.1 **
問16.1 HIV抗体検査をすでに受けた	4.0	2.8	2.3	6.4	3.8	3.0	4.0	0.0 **
2 無料なら受けてみたい	49.5	43.3*	59.8	59.6	50.0	42.4	40.7	16.2 **
3 受けようとは思わない	46.5	53.9*	37.9	34.0	46.2	54.5	55.3	83.8 **
3-1 自分には関係ない	70.2	78.2*	66.7	54.8	70.9	72.1	83.1	88.3 **
3-2 聞くのが恐い	8.9	6.1	16.0	14.5	8.9	6.7	3.6	0.7 **

* 0.05>p>0.01,　** p<0.01

顕著になっている．

4．考　　察

ここでは，各調査項目への応答の年齢別特徴を，平成3年に行われた2つの調査（内閣総理大臣官房広報室：エイズに関する世論調査（平成3年5月）[5]，三重県保健環境部：エイズに関する県民意向調査（平成3年3月）[6]）と比較しつつ，応答の類似性と相違を考察する．

(1) 20歳未満の特徴．この年代は情報収集のためにエイズ特集番組を見たり(65.0%)，講演会に参加したりする割合（4.6%）は他の年代に比べて低い．また保健所においてHIV抗体検査が匿名かつ無料で受けられることも十分に知っていない(35.9%)．自分がエイズに感染する事への不安は20歳代（48.5%）と同様に高く(41.1%)，また自分がエイズに感染した場合，「自殺をする」を選ぶ割合も他の年代よりも高い(10.5%)．このことは三重の調査においても同様の傾向を示す．また，自分がエイズに感染した場合，「わからない」とする割合が高い(45.2%)．この特徴については，田口[7]も高校生へのアンケート調査で指摘している．次に「HIV抗体検査を受けたい」という割合は20歳代に次いで高い(62.1%)．また検査を受けたくない理由のうち，「結果を聞くのが恐い」という割合は他の年代に比べて高い(16.0%)．これらは彼らのもつ不安を象徴的に表わしている．エイズが及ぼす社会的問題についての関心度は他の年代に比べて低い．この年代ではエイズと社会問題との関連がまだ十分に理解されていないためであろう．この年代はエイズについての十分な情報を得る機会が少ないか，あるいは積極的に自分から情報を入手しようとしていない特徴をもつ．しかし彼らはエイズに対して強い不安感を持っている．異性間の性行為がHIVの主要な感染経路になりつつある現在，彼らが抵抗なくエイズについて考え，彼らの持つ不安に応えうるエイズ教育が必要と思われる．

(2) 20歳代の特徴．この年代ではエイズ特集番組を見たり（76.2%），講演会に参加する割合（16.8%）は10代に比べて増加する．エイズを自分の問題として捉える割合は他の年代に比べて高く（問3，85.4%），エイズに対する不安感はこの年代で最も強い（48.5%）．このことは総理府の調査においても同様に見られる．また，自分がエイズに感染した場合，「わからない」(43.2%)，「自殺をする」(8.7%)を選ぶ割合は，20歳代未満と同様に高い．また「HIV抗体検査を受けたい」という割合は他の年代に比べて高い(66.0%)．検査を受けたくない理由のうち，「結果を聞くのが恐い」という割合も20歳未満に次いで高い(14.5%)．この年代は，エイズ教育に対して積極的に関心を示す年代であり，また性活動の活発な年代にあたるため，従来のエイズ教育が高い成果をあげるものと思われる．宗像[8]もこのことについて，同様の見方を持っている．

(3) 30～50歳代の特徴．この年代では，エイズを自分の問題として捉える割合およびエイズに対する不安感が年代と共にゆっくりと減少し始める．この傾向は総理府の調査においても同様に見られる．また「HIV抗体検査を受けたい」という割合は年代と共に減少し(53.8～44.7%)，「HIV抗体検査を受けようとは思わない」の理由で，「自分には関係がない」の割合が年代とともに増加する(70.9～83.1%)．このことは性活動の活性度の低下を反映したものと思われる[9]．自分がエイズに感染した場合，「自殺をする」を選ぶ割合は極端に少なく，かつ年代とともに減少している(4.4～1.2%)．配偶者が感染した場合，「同様の生活をする」を選ぶ割合（41.5～47.7%）は総理府の調査(26.4～28.7%)，三重の調査（12.4～15.4%）に比べて，大幅に増加している．同様に，身近な人の場合も，「同様の生活をする」を選ぶ割合（50.3～65.9%）は総理府の調査（26.2～28.6%），三重の調査（17.6～21.2%)に比べて，大幅に増加している．「エイズは普通の生活をしていれば感染することはない」という設問に対する本調査の割合（97.8～98.2%）が三重の場合（25.7～32.5%）に比べて，大幅に増加していることを考え合わせれば，平成3年から5年に渡る期間に「エイズは普通の生活では感染しない」という正しい知識が行きわたったためであろう．

(4) 60歳代以上の特徴．この年代は他の年代に比べてエイズに対する考え方が大きく異なっている．エイズ特集番組を見たり(69.2%)，講演会に参加する割合(11.2%)は20歳未満と同様に低い．また［エイズは自分には関係ある」とする人が46.7%と低く，エイズに対する不安もきわめて少ない（8.5%）．この傾向は総理府，三重の調査においても同様に見られる．ただし，

この不安の減少は正しい知識の獲得を意味しない．なぜなら60歳以上の女性は，HIV 感染に対する知識，予防知識ともに不正確な傾向にあり，依然，日常的接触によって HIV 感染が起こると思っているからである(問11)．HIV 感染者に対する態度においては，自分がエイズに感染した場合，「同様の生活をする」割合は20～50歳代に比べて減少する (22.3%)．また「医療機関に入院する」割合は増加する (38.5%)．配偶者や，身近な人が感染した場合，「生活の場を分ける」(15.2%)，「別居する」(15.7%)，「なるべくつき合わない」+「一切つき合いをやめる」(26.1%)を選択する割合が増加する．これは，この年代が男女ともエイズ感染者に対して不寛容な態度をもつ傾向にあるためであろう．

以上のような考察結果は，サンプリングデザインの不備という問題点があるにせよ，現場職員の推測，実感に近いものがあり，今後は，偏りの少ない集団による精密な調査の必要があると思われる．

5．要　　約

平成5年5月から10月の間に高砂市およびその近隣住民，2660人にエイズに関する意識調査を実施し，1182名の有効な回答を得た．この回答を解析した結果，年齢区分に特徴的な意識の相違を見出した (1)20歳未満の年代はエイズについての十分な情報を得ておらず，エイズに対して強い不安感を持っている．(2)20歳代はエイズに対して強い不安感を持ち，エイズ情報に対して積極的な関心を示している．(3)30～50歳代はエイズに対して関心はあるものの，20歳未満，20歳代ほどエイズに対する危機感と不安感はない．(4)60歳代以上はエイズは自分には関係ないと考えており，エイズに対する不安感はきわめて小さい．

6．謝　　辞

この調査は平成5年度兵庫県地域保健所行政推進事業，ならびに平成7年度姫路獨協大学特別研究助成の指定を受けた．

文　　献

1）Weekly Epidemiological Record, 1995 : **70** (7 July) : 193-196
2）AIDS 情報ファイル，No.3666，日本医事新報，東京：平成6年7月30日：132
3）エイズサーベイランス委員会結果報告，東京：平成7年9月27日
4）橋本ら：エイズサーベイランス報告に基づく HIV 感染者数と AIDS 患者数の動向，日本公衛誌，1993；**40**(12)：1184-1195
5）内閣総理大臣官房広報室：エイズに関する世論調査，東京：平成3年5月
6）三重県保健環境部：エイズに関する県民意向調査，三重：平成3年3月
7）田口正男：アンケートに見る高校生1090人のエイズ認識，公衆衛生，1994；**58**(9)：661-665
8）宗像恒次：エイズへの行動科学的アプローチ，公衆衛生，1991；**55**(10)：685-690
9）根岸昌功，宗像恒次，桜井賢樹：エイズ教育テキスト，学研，東京：1993：126